

令和 5 年度事業報告

(令和 5 年 4 月 1 日－令和 6 年 3 月 31 日)

I. 会員数 (令和6年3月31日)

(1) 名誉会員			
令和 5 年 3 月 31 日会員数	7 名		
名誉会員現在数	7 名	(増減なし)	
(2) 正会員			
令和 5 年 3 月 31 日会員数	1002 名		
令和 5 年度新入会員数	128 名		
令和 5 年度退会者数	119 名		
内訳	希望退会者	119 名	
	物故者	0 名	
正会員現在数	1011 名	(9 名増)	
(3) 維持会員			
令和 5 年 3 月 31 日維持会員数	96 社		
令和 5 年度入会社数	3 社		
令和 5 年度退会社数	4 社		
維持会員現在数	95 社	(1 社減)	

II. 第70回通常総会

開催年月日： 令和5年5月25日

開催場所： つくば国際会議場

III. 理事会、理事・評議員懇談会

- (1) 理事会 3回開催
- ① 第1回 開催年月日： 令和 5 年 4 月 24 日
開催場所： 御茶ノ水ソラシティ
 - ② 第2回 開催年月日： 令和 5 年 11 月 17 日
開催場所： 実験動物中央研究所
 - ③ 第3回 開催年月日： 令和 6 年 3 月 7 日
開催場所： オンライン開催

- (2) 理事・評議員懇談会 1回開催

開催年月日： 令和5年5月23日

開催場所： つくば国際会議場

IV. 定期学術集会の開催

第 70 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会 期： 令和 5 年 5 月 24 日（水）～26 日（金）

会 場： つくば国際会議場

会 長： 杉山文博（筑波大学）

参加者： 1,250 名

V. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、公開した。

発行年月日	巻	号	備 考
2023 年 4 月 1 日	72	2	
2023 年 7 月 1 日	72	3	
2023 年 8 月 1 日	72	Supplement	Proceedings of the 70th JALAS Conference
2023 年 10 月 1 日	72	4	
2024 年 1 月 1 日	73	1	

VI. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 令和 5 年度学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞（2 名）

喜多正和 会員（京都府立医科大学）

高倉 彰 会員（実験動物中央研究所）

2) 安東・田嶋賞（1 名）

久和 茂 会員（東京大学）

「マウス肝炎ウイルスのマウス個体の感染防御機構およびマウス個体間での伝播に関する研究」

3) 奨励賞（1 名）

吉沢隆浩 会員（信州大学）

「筋拘縮型エーラスダンロス症候群の疾患モデル動物の開発と解析」

4) 2022 年 Experimental Animals 最優秀論文賞（3 編）

○川上浩平、松尾裕之、梶谷尚世、山田高也、松本健一

Comparison of survival rates in four inbred mouse strains under different housing conditions: effects of environmental enrichment

「4 系統の近交系マウスにおける異なる居住条件下での生存率の比較：環境エンリッチメントの影響」

○マクシェヴァ ユリア、鄭 琇絢、秋津 葵、前田菜摘、丸橋拓海、葉 曉琪、海部知則、西城 忍、孫海陽、韓 偉、唐 策、岩倉洋一郎

The C-type lectin receptor Clec1A plays an important role in the development of experimental autoimmune encephalomyelitis by enhancing antigen presenting ability of dendritic cells and inducing inflammatory cytokine IL-17

「C型レクチン受容体 Clec1A は、樹状細胞の抗原提示能を高めるとともに炎症性サイトカイン IL-17 を誘導することにより、実験的自己免疫性脳脊髄炎の発症に重要な役割を果たしている」

○大野民生、宮坂勇輝、吉田勘太、小林美里、堀尾文彦、横井伯英、水野正司、池上博司

A novel model mouse for type 2 diabetes mellitus with early onset and persistent hyperglycemia

「早期発症し持続的高血糖を示す新たな 2 型糖尿病モデルマウス」

5) 第 70 回総会 優秀発表賞

○岸本恵子、ペンフォールドクリストファー、上岡美智子、フー ファイユ、ボロビアーク ソーステン、佐々木えりか

「疑似着床培養コモンマーモセット胚の解析」

○小林良祐、川端麗香、杉山真言、小山徹也、大塚正人、堀居拓郎、森田純代、西山正彦、畑田出穂

「In vivo ゲノム編集による子宮内膜がんモデルマウスの迅速作製」

○松本翔馬、守村敏史、森重悦子、沼田洋輔、依馬正次

「常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) モデルカニクイザルのヒト疾患モデルとしての有用性」

○脇本 新、全 孝静、野田篤志、廖 晋緯、林 洋平、濱田理人、高橋 智

「経胎盤移植によって移植されたヒト臍前駆細胞は臍欠損マウスの生存に寄与する」

(2) 2022 年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

2022 年受賞者 (4 名)

中国 : Ms. Xiaoliang Jiang

台湾 : Dr. Yu-Wen Liu

韓国 : Mr. Jae-Hun Ahn

インドネシア : Dr. Ahmad Kurniawan

(3) 令和 6 年度学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞 (2 名)

落合敏秋 会員 (ハムリー株式会社)

山田靖子 会員 (国立感染症研究所)

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

真下知士 会員 (東京大学)

「実験動物学におけるゲノム編集および新しいモデル動物の開発研究」

3) 奨励賞 (1 名)

渡邊正輝 会員 (北里大学)

「アドリアマイシン腎症モデル及び TRECK 法を用いたポドサイト障害モデルの開発」

4) 2023 年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (3 編)

○藤井 颯、中田雄太、加藤容子

Rescue of oocytes recovered from postmortem mouse ovaries

「死亡マウスから回収した卵子の生存性向上に関する検討」

○森 政之、代 健、宮原大貴、李 瑩、亢 曉静、吉見一人、真下知士、樋口京一、松本清司

Cyba and Nox2 mutant rats show different incidences of eosinophilia in the genetic background- and sex-dependent manner

「Cyba と Nox2 変異ラットは遺伝的背景および性別に依存した異なる好酸球増多症の発症率を示す」

○何 裕遥、伊藤亮治、野津量子、富山香代、植野昌未、小倉智幸、高橋利一

Establishment of a human microbiome- and immune system-reconstituted dual-humanized mouse model

「ヒト微生物叢と免疫系を再構築したデュアルヒト化マウスモデルの確立」

(4) 2023 年日本実験動物学会国際賞を選考した。

2023 年受賞者 (5 名)

マレーシア : Ms. Siti Nor Hikmah Abdul Rasid

フィリピン : Mr. Joannes Luke Bognot Asis

シンガポール : Dr. Yuek Ling Chai

スリランカ : Dr. Arachchillage Anusha Indukumari Senevirathne Menike

タイ : Dr. Nisachon Apinda

VII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度委員会、人材育成委員会、将来検討委員会、動愛法等対策委員会、外部検証委員会を設置し、活動を行った。

VIII. 動物実験に関する外部検証

令和 5 年度動物実験に関する外部検証事業として 38 機関 (国立大学 10 機関、公私立大学 23 機関、文部科学省所轄外 5 機関) の外部検証を実施した。(外部検証委員会担当)

IX. 外部検証のための人材育成

文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト「外部検証推進のための人材の育成と活用」の課題を推進した。国動協、公私動協及び日本実験動物学会から推薦された外部検証専門員候補

者9名に対して外部検証促進のための人材育成講習会ならびに調査随行の課程を実施した。（人材育成委員会担当）

X. 関連学協会との連携

- （1）日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。
- （2）国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- （3）国際実験動物科学会議（ICLAS）及びアジア実験動物学会連合（AFLAS）における活動を継続した。
- （4）韓国実験動物学会（KALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。
- （5）公益財団法人実験動物中央研究所ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センター（JaCVAM）など実験動物・動物実験に携わる機関の活動に協力した。

XI. その他

- （1）第18回実験動物管理者等研修会を開催した。（実験動物管理者研修制度委員会担当）
会 期：令和5年6月29日（木）～30日（金）
会 場：北海道大学大学院獣医学研究院・獣医学部講堂
参加者：100名（会員20名、維持会員団体職員10名、非会員70名）
- （2）第11回実験動物科学シンポジウムを開催した。（学術集会委員会担当）
テーマ：「よりよい動物実験をするため～動物施設と研究者の立場から」
開催日：令和5年8月5日（土）
会 場：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部研究棟
参加者：56名
- （3）第19回実験動物管理者等研修会を開催した。（実験動物管理者研修制度委員会担当）
会 期：令和5年10月4日～27日
方 法：オンデマンド配信
受講者：160名（会員58名、維持会員団体職員23名、非会員79名）
- （4）令和5年度維持会員懇談会を開催した。（財務特別委員会担当）
テーマ：「パンデミック再来への備え、実験動物の関わりの検証」
開催日：令和5年11月17日（金）
会 場：川崎生命科学・環境研究センター／ライブ配信
参加者：145名（会場66名、オンライン79名）
- （5）動物実験の外部検証：令和6年度の実施準備に向けた事前説明会を開催した。（人材育成委員会担当）
開催日：令和6年1月26日（金）
会 場：お茶の水ソランティカンファレンスセンター／ライブ配信
参加者：154機関、396名
- （6）第73回日本実験動物学会総会の大会長を選出し開催概要を決定した。
会 期：令和8年5月20日（水）～22日（金）（予定）

会 場：沖縄コンベンションセンター（予定）

大会長：鈴木 真（沖縄科学技術大学院大学）